人々が愛着を持つ場を生み出す ローカル・ガバナンスに関する研究 ―小田野中央公園を対象として―

1X16D040-7 小松凜太郎**

現代社会において、統治から協治への変化が求められる中、本研究では、様々な主体が相互協調しながら問題解決を行うありさまを指すローカル・ガバナンスと人々で賑わいつづける場の形成に注目する。その為、ローカル・ガバナンスによる公園づくりの成功例と評される東京都八王子市の小田野中央公園を対象とし、公園にまつわる出来事に関して記述整理を行う。また、公園づくりの経緯において、人々に利用され続ける公園の現状に影響を与える要因を明らかにする上で、まちづくり効果と場所愛着の概念を用いた分析を行った結果、住民の関心を集め続けたワークショップの持続的開催と、開園後の公園整備団体の活動が、公園の現状に対する影響力を持つことが明らかになった。

Key words: ローカル・ガバナンス、 景観整備、 小田野中央公園、 まちづくり効果、 場所愛着

1. 研究の背景と目的

1.1 研究の背景

現代社会において、社会問題の複雑化や様々な主体の多様化により、統治(ガバメント)から協治(ガバナンス)への変化が求められ指摘されているり。一方、現代において、山本らっは、日本社会において人々の生活が心もとない「自助」と「公助」におかれる一方で、それらを補完すべき「共助」及び「互助」が人々の意識から抜け落ちている傾向にあると述べている。ここで言う自助とは、自らの力で自らを支えること、公助とは、自助では対応できない状況に必要な支援を行い、基本的な生活権を保証することであり、人々が相互で自助や公助を補完することを共助と言い、特に住民同士での相互扶助のことを互助と言う。こうした、共助及び互助の担い手となりうる地域コミュニティの形成に関して関心が高まってきている。

また、中村・羽貝ら³は、現代日本において機能を重視したために切り取られた空間に風景を取り戻そうとする事例の多くで、住民、町会・自治会、地域団体、NPO、ボランティア、基礎自治体や国、研究機関などの様々な主体の協働の活動が見られていることを指摘し、この様々なアクターが相互協調しながら統治するありさまを「ローカル・ガバナンス」という言葉で表している。しかし、中村らの記述に見られる「様々なアクター」について定義付けすることは難しく、そもそもローカル・ガバナンスという言葉の定義は、取り扱う人によってニュアンスが異なる。

そこで、ローカル・ガバナンスとはどういうものなのかについて目を向けることが重要であり、その本質を意識した上でローカル・ガバナンスの実態を把握することは、様々な景観整備事業においてローカル・ガバナンスという言葉が用いられてきた現代において、地域コミュニティにおけ

る景観整備事業の一つの指針となりうる。

1.2 ローカル・ガバナンスの位置づけ

今川らがは、ローカル・ガバナンスについて「公共の領域を担う主役はむしろ住民の側にあり、このことを前提として議会や執行部との関係を作り直し、自治の新しい運用秩序を目指しているもの」としており、住民との協働がローカル・ガバナンスを捉える上で一番大切であると唱えている。その上で羽貝らかの研究をみると、ローカル・ガバナンスについて、「住民参加」という表現を用いるならば、それにおいて、参加の範囲と質を根本から見直すことを要請しなければならないと述べている。そして、有権者・納税者、自治体の最終意思決定権者である住民自身が、広く市民と連携しながらも、課題の当事者として地域や自治体全体が抱える公共的課題を理解し、その解決に要する意思決定に実質的に関わることが何よりも求められているという観点からローカル・ガバナンスは新たな「住民参加型自治」を意味するものと捉えている。

1.3 研究の目的

ローカル・ガバナンスに関して、住民参加や地域コミュニティの形成という観点で様々に論じられているが、具体的なある場所の質を考える際に、ローカル・ガバナンスの概念を用いて、その場所の形成過程を具体的に分析しながら論じられている例は少ない。そこで本研究は、ローカル・ガバナンスによって作られた公園の成功例として複数の文献で紹介されている東京都八王子市西寺方町小田野中央公園を対象として、公園づくりの歴史の経緯を把握し、その上で対象地が現在も人々に愛され続けている原因について、ローカル・ガバナンスの観点から明らかにすることを目的とする。

2. 研究の概要

2.1 既存研究の整理

本研究に関する研究として、景観政策の実施過程における事例分析に関する研究、場所愛着に関する研究、公共事業による良質な空間の創出が地域のまちづくりに及ぼす効果に関する研究がある。

(1)景観政策の実施過程における事例分析に関する研究

藤倉らのは、長野県旧開田村を対象地として、景観政策の主体(行政・住民・その他の関係者・景観アドバイザー)によるガバナンスにおいて、注力した内容と地域づくりへ展開できた要因を入念なヒアリングによりまとめあげている。その上で、ローカル・ガバナンスの成因には地域特性が大きく関わることを明示している。

(2) 場所愛着に関する研究

大谷らっは、人々が場所により馴染むと共に形成されている意味の豊かさについて場所愛着という言葉を用いている。人は「場」に愛着を持つ際に人・場所・過程を媒介とするとされ、「人とのつながりを感じられて好きだから、眺めが好きだから」といった直接的に表れる好意だけでなく、「〇〇して遊べるから、社会的に称賛をうけたから、習慣で足を運ぶから」というような回りまわってうまれる感情をも愛着としてまとめている。

(3) 公共事業による良質な空間の創出が地域のまちづくりに及ぼす効果に関する研究

小栗ら 8は、「公共事業による良質な空間の創出がまちづくりに及ぼす効果」をまちづくり効果と定義し、様々な事例を通してまちづくり効果の構成を定めるという研究をしており、景観事業の評価基準として、説得力を持つ枠組みの提示がされている。

2.2 本研究の位置づけ

本研究は、小田野中央公園をケースとして、ローカル・ガバナンスの詳細と、人々が公園に訪れる現状を整理することで、ローカル・ガバナンスが育む場を人々が愛する成因を明らかにする。その上で、既存研究に示されるまちづくり効果という評価基準を用いることで、成因分析に具体性と信頼性を付与する

2.3 研究の方法

(1)対象地の実態把握

現地調査により対象地の空間の特徴を把握すると共に、 文献調査により対象地におけるローカル・ガバナンスの具体的事例や背景について整理する。

(2)まちづくり効果による分析

まちづくりの効果を参照として、対象地における事例が 持つまちづくり効果を一つずつ整理する。また、それらを 通時的に見ることで、対象地における景観事業が展開され てった経緯と転機について考察する。

(3)場所愛着による分析

場所愛着の観点を用いることで、人々が愛着を持つポテンシャルを発現した事例について整理する。その中で、単なる住民参加型まちづくりとは異なるローカル・ガバナンスが持つ特性を由来とするものについて考察する。

以上の分析を統合し、ローカル・ガバナンスの具体化した対象地の事例研究とする。

3. 対象地の概要

3.1 小田野中央公園の位置

小田野中央公園は、東京都八王子市西寺方町に位置する。 浅川の上流、約620メートルに渡って細長く広がる河川敷 を活用している公園であり、面積は約3.1~クタールである9。園内は、子供広場、日時計広場、中央広場、木陰広 場、仲良し広場の5つのエリアと、浅川沿いの桜並木の遊 歩道から構成されており、エリアごとに異なる公園利用の 仕方や場所としての特性を観察することができる。

3.2 小田野中央公園の成り立ち

小田野中央公園の用地はかつて、都市化された周辺の機能から取り残され荒廃していた。その空間を整備し、維持管理したいという目的のもと手作り公園としてつくられたのが小田野中央公園である。ここで言う手作り公園とは、平成15年に八王子市により設けられた手作り公園制度10に基づくものであり、本制度は、地元の人たちが労力を提供しあって道や家などを作ったかつての「普請」に発想を得ている。手作り公園は共同作業を通して地域に繋がりが生まれ、住民相互の信頼のもとに地域社会が構成されていくという公園づくりを通した地域コミュニティの醸成が図られることを大きな目標としている。



図 3.1 小田野中央公園園内概略地図 11)

荒廃した用地に行政・住民両者の問題意識の高まりによって、2004年に協働の原則の下、小田野公園をつくる会(以降つくる会)が発足した。様々な団体が公園づくりに関わる中で、住民と行政の対等な関係と相互の自主性の尊重と情報の共有・公開を徹底することで円滑な公園づくりの運営を進めた。

まず、作る会は、住民とのワークショップを経て図 3.3 に示す基本計画図を作成し、それ以降もつくる会と住民との協働を続けることで、手作り公園を作りあげた。

2008 年に小田野中央公園が開園した後は、つくる会は、小田野中央公園まちづくりの会(以降まちづくりの会)へと改名して現在まで活動をつづけている。つくる会及びまちづくりの会の活動内容は各ウェブサイトなどに掲載される「まちづくり通信」によって、地域内外の住民へと伝えられる仕組みになっている。

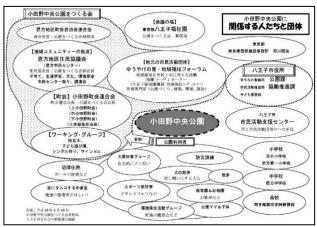


図3.2 小田野中央公園を作る会に関わる主体の図12

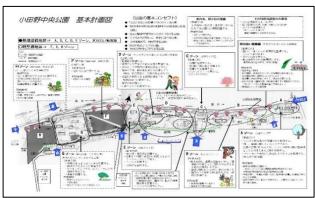


図3.3 小田野中央公園基本計画図12

3.3 小田野中央公園の現状

現在の小田野中央公園における活動は、まちづくりの会が中心となって行われている。まちづくりの会は、地域活力づくり、防災・防犯、青少年育成、環境保全、広報といった多面的な活動をしている。環境保全活動は一年を通して活発に行われており、花壇の手入れを手掛ける「チームひょうたん」の取り組みなどが挙げられる。また、地域活力づくりに関して、複数のイベント開催による地域の活性

化が行われており、特に3月に行われるさくらまつりは、 開園から10年以上経つ現在でも各地から多くの人が訪れる。





図3.4チームひょうたんの活動とさくらまつりの様子

4. 小田野中央公園における通時的整理

4.1 小田野中央公園開園までの経緯

小田野中央公園は、東京都八王子市西寺方町に位置する。 表 4.2 は小田野中央公園開園までの出来事を一度年表にまとめ直したものから、小田野中央公園におけるローカル・ガバナンスをいくつかの期間に分けた際に転機となるもののみを抽出したものである。 開園までの期間について、①1997年の八王子市におけるフォーラムの設立から2004年3月のつくる会設立まで、②2004年3月から2005年10月のワーキンググループ設立まで、③2005年10月から2006年3月まで、④2006年春から2007年春の公園のシンボル作りまで、⑤小田野中央公園開園まで、以上の5つの期間に整理できた。

4.2 ヒアリング調査

(1)ヒアリング調査の目的と概要

2019年12月2日に現小田野中央公園まちづくりの会副会長塚原京史様、現会員であり特定非営利活動法人「小津倶楽部」代表理事前原教久様を対象としたヒアリング調査を行った。小田野中央開園までの期間について、主体の関わり方、また開園後から現在にかけてのまちづくり活動の維持について話を伺った。

(2)ヒアリング調査の結果

活動に関する問いへの答えとして表 4.1 に示された内容を得ると共に、当時の細かな話や別地区へと展開している新たな活動(小津倶楽部)に関する話など様々な事を聞くことができ、公園づくりの過程における工夫や展開要因を記述する上で示唆を得た。また、公園づくりの歴史に関して、つくる会の当時のメンバーが自分たちの活動についてどのような認識をされていたのかについて、期間ごとに分けたものが表 4.2 の①~⑤にあたる。

表 4.1 主なヒアリング質問項目事項と内容

20) -) X X X X
質問事項	回答
公園づくりの出来事の中で特に	・元木小学校、恩方中学校生徒とのワークショップ
重要であったと思い返せること	・恩方地区住民協議会があらゆる活動で中心にいた
開園後の活動の中で特に現状に	・開園後に結成された女性中心の花壇隊「チームひょ
影響を与えていること	うたん』の定期的な活動。 さくらまつりの定期的開催

表 4.2 公園づくりの歴史の概略

	·
年月	出来事
1997	東京都八王子福祉園の労働組合を中心に「ゆうやけの里・地域福祉フォーラム」がスタートする
	①1997~2004 春: 問題意識の向上
2004.08	小田野中央公園を作る会が発足される
	②2004 夏~2005 秋:課題発見期
2005.10	第1回ワーキンググループ作戦会議(①河川沿い道路桜並木整備、②子供遊び場作り、③公園のシンボルづくり、3グループの活動が開始)
	③2005 秋~2006 春:相互理解期間
2006.03	第5回市民協働ワークショップ開催(河津桜の植樹、桜周りの花の苗植え、木のペンダントづくり、元木小学校生による夢の公園づくり模型展示)
	④2006春~2007春:目的共有期間
2007.03	だれでもトイレ、公園のシンボル(カメの日時計、手押しポンプ、築山)の完成
	⑤2007 春~2008 春: 公園づくり最終年度
2008.03	小田野中央公園開園、開園式を行う (03.09)
	第1回さくらまつりが行われる
2008.07	小田野中央公園を作る会が小田野中央公園まちづくりの会に 一新される

5. まちづくり効果の観点による分析

本研究では小田野中央公園の評価を行う為に、国土技術 政策総合研究所によってまとめられたまちづくり効果を高 める公共事業のための手引き⁸を用いる。

5.1 まちづくり効果の分類

まちづくり効果とは国土技術政策総合研究所による手引きの中で、「公共事業による良質な空間の創出がまちづくりに及ぼす効果」と定義づけられており、生活の質の向上を実現するために、公共事業によって生み出される空間は美しく快適な、いわば良質な空間である必要があり、その為の取り組みとして景観配慮を行い、そうした景観配慮によってもたらされる効果のことをまちづくり効果としている。これらは直接的に地域に及ぼされる効果と持続的なまちづくりに向けた効果の二つに分けられており、それらを本稿では右上の表 5.1、5.2 に整理し直した。これらの指標を用いて小田野中央公園まちづくりにおける当時の活動を評価、また現状分析を行う。

5.2 小田野中央公園におけるまちづくり効果

(1)まちづくり効果による分析の概要

手引きでは、具体的な事例を交えて効果の内容やまちづくりにおける意味を解説し、他に適応可能な指標が整理されている。それをもとに、小田野中央公園まちづくりに関わる各出来事について、表 5.1 と 5.2 に示されるまちづくり効果を発揮する要素があったのかどうかについて評価を行う。ここでいう要素の有無とは、小田野中央公園の当時の出来事について、手引きに見られる内容が見受けられるかどうかである。そのため、持続的なまちづくりに関わるまちづくり効果に関しては、小田野中央公園のまちづくりが

表 5.1 直接的な効果をもたらすまちづくり効果

人 日良好な景観の具体像に対する住民の理解が深まる 々 2 まちづくりに対する官民それぞれの役割に対する理解が深まるの。 意 4 「まち」に対する住民の関心が高まる。 識 5 まちの景観はみんなのものという意識が芽生える。 6 地域内外の多くの人が訪れ利用する。 7 様々な地域活動(イベント等)が行われる。 8 まちにおける人の動き・流れが変わる。 9 関係者間(行政機関・地元組織)の連携が促進される。 2 地域の景観的な魅力が高まる。 11 地域の景観的な魅力が高まる。 12 地域資源(シンボル・歴史・文化等)が保全・発掘される。 技術 14 伝統技術が復元・活用される。 15 マスコミ・マスメディア掲載が増える。 16 デザイン賞など各種賞を受賞する。			
の 3 官民が協力し合ってまちづくりを進める機運が高まる 意 4 「まち」に対する住民の関心が高まる 意 5 まちの景観はみんなのものという意識が芽生える 6 地域内外の多くの人が訪れ利用する 7 様々な地域活動(イベント等)が行われる 8 まちにおける人の動き・流れが変わる 9 関係者間(行政機関・地元組織)の連携が促進される 10 まちづくり団体(NPO・協議会など)が発足する 11 地域の景観的な魅力が高まる 12 地域資源(シンボル・歴史・文化等)が保全・発掘される 技術 13 地域ならではの技術が開発される 技術 14 伝統技術が復元・活用される 評価 15 マスコミ・マスメディア掲載が増える	人	1	良好な景観の具体像に対する住民の理解が深まる
意 4 「まち」に対する住民の関心が高まる 5 まちの景観はみんなのものという意識が芽生える 6 地域内外の多くの人が訪れ利用する 7 様々な地域活動(イベント等)が行われる 8 まちにおける人の動き・流れが変わる 9 関係者間(行政機関・地元組織)の連携が促進される 10 まちづくり団体(NPO・協議会など)が発足する 11 地域の景観的な魅力が高まる 12 地域資源(シンボル・歴史・文化等)が保全・発掘される 技術 13 地域ならではの技術が開発される 14 伝統技術が復元・活用される 15 マスコミ・マスメディア掲載が増える	√	2	まちづくりに対する官民それぞれの役割に対する理解が深まる
議 5 まちの景観はみんなのものという意識が芽生える 6 地域内外の多くの人が訪れ利用する 7 様々な地域活動 (イベント等) が行われる 8 まちにおける人の動き・流れが変わる 9 関係者間 (行政機関・地元組織) の連携が促進される 10 まちづくり団体 (NPO・協議会など) が発足する 空間 11 地域の景観的な魅力が高まる 12 地域資源 (シンボル・歴史・文化等) が保全・発掘される 技術 13 地域ならではの技術が開発される 14 伝統技術が復元・活用される 15 マスコミ・マスメディア掲載が増える	の	3	官民が協力し合ってまちづくりを進める機運が高まる
6 地域内外の多くの人が訪れ利用する 7 様々な地域活動(イベント等)が行われる 8 まちにおける人の動き・流れが変わる 組織 9 関係者間(行政機関・地元組織)の連携が促進される 10 まちづくり団体(NPO・協議会など)が発足する 空間 11 地域の景観的な魅力が高まる 12 地域資源(シンボル・歴史・文化等)が保全・発掘される 技術 13 地域ならではの技術が開発される 14 伝統技術が復元・活用される 評価 15 マスコミ・マスメディア掲載が増える	意	4	「まち」に対する住民の関心が高まる
(行動 7 様々な地域活動 (イベント等) が行われる 8 まちにおける人の動き・流れが変わる 9 関係者間 (行政機関・地元組織) の連携が促進される 10 まちづくり団体 (NPO・協議会など) が発足する 11 地域の景観的な魅力が高まる 12 地域資源 (シンボル・歴史・文化等) が保全・発掘される 技術 13 地域ならではの技術が開発される 14 伝統技術が復元・活用される 15 マスコミ・マスメディア掲載が増える	識	5	まちの景観はみんなのものという意識が芽生える
8 まちにおける人の動き・流れが変わる 9 関係者間(行政機関・地元組織)の連携が促進される 10 まちづくり団体(NPO・協議会など)が発足する 11 地域の景観的な魅力が高まる 12 地域資源(シンボル・歴史・文化等)が保全・発掘される 技術 13 地域ならではの技術が開発される 14 伝統技術が復元・活用される 評価 15 マスコミ・マスメディア掲載が増える		6	地域内外の多くの人が訪れ利用する
組織 9 関係者間 (行政機関・地元組織) の連携が促進される 10 まちづくり団体 (NPO・協議会など) が発足する 空間 11 地域の景観的な魅力が高まる 12 地域資源 (シンボル・歴史・文化等) が保全・発掘される 技術 13 地域ならではの技術が開発される 14 伝統技術が復元・活用される 評価 15 マスコミ・マスメディア掲載が増える	行動	7	様々な地域活動(イベント等)が行われる
組織 10 まちづくり団体 (NPO・協議会など) が発足する 空間 11 地域の景観的な魅力が高まる 12 地域資源 (シンボル・歴史・文化等) が保全・発掘される 技術 13 地域ならではの技術が開発される 14 伝統技術が復元・活用される 評価 15 マスコミ・マスメディア掲載が増える		8	まちにおける人の動き・流れが変わる
10 まちづくり団体 (NPO・協議会など) が発足する	如丝	9	関係者間(行政機関・地元組織)の連携が促進される
空間 12 地域資源 (シンボル・歴史・文化等) が保全・発掘される 技術 13 地域ならではの技術が開発される 14 伝統技術が復元・活用される 15 マスコミ・マスメディア掲載が増える	ル旦和以	10	まちづくり団体(NPO・協議会など)が発足する
12 地域資源 (シンボル・歴史・文化等) が保全・発掘される 13 地域ならではの技術が開発される 14 伝統技術が復元・活用される 15 マスコミ・マスメディア掲載が増える	か問	11	地域の景観的な魅力が高まる
技術 14 伝統技術が復元・活用される 15 マスコミ・マスメディア掲載が増える	工川	12	地域資源(シンボル・歴史・文化等)が保全・発掘される
14 伝統技術が復元・活用される	北大公行	13	地域ならではの技術が開発される
評価	נווין 🗓	14	伝統技術が復元・活用される
	電/布	15	マスコミ・マスメディア掲載が増える
	пт, ІШ	16	デザイン賞など各種賞を受賞する

表 5.2 持続的なまちづくりに関するまちづくりの効果

意識	17	まちづくりに対する住民の参画意識が高まる
行動	18	住民がまちづくりに積極的に参画する
組織	19	景観形成を進めるための体制が構築される
小旦和以	20	景観形成の推進が行政計画として位置づけされる
空間	21	景観整備や景観に対する配慮が周辺に広がる
工川	22	まちの景観的な構造(目鼻立ち)が明確になる
技術	23	開発、活用した技術が広まる
評価	24	地域の商業・産業活動が活発化する
пΤШ	25	まちの景観的な構造(目鼻立ち)が明確になるブランド力が高まる

持続している現状に影響を与えている可能性があることを示すのであって、実際にその出来事が小田野中央公園の現状にどれほどの影響を与えているかどうかに関しては、また個別に考察する必要がある。

具体的な分析は以下のように行った。まず、小田野中央公園の計画から現在までの出来事を時系列で整理し(表 5.3) その一つ一つの事象に対して、その概要を整理すると共に表 5.1、5.3 に示した 25 個の評価項目が当てはまるかをチェックする (図 5.1)

。これらを表の結果を表 5.4 にまとめた。

(2)まちづくり効果の分析結果

分析の結果、直接的なまちづくり効果と持続的なまちづくり効果で異なる特徴が見受けられた。

直接的効果において、つくる会発足前から公園づくり序盤にかけては、効果1、2、4に示されるように住民の景観や公園づくりへの理解・関心の向上に対する効果が集中している。また、公園づくりを通して効果3、5、9に示されるように行政と住民の協働に対する意識や連携の向上に対する効果が確認されている。これらは、小田野中央公園を作る会が掲げる協働の原則に合致すると共に、表4.2に示される当時の作る会メンバーによる認識の内容とも合致しており、公園づくりに参加した人々の意識や組織力の高さが裏付けられるものとなった。開園後に関しては、効果7、8に示されるようにイベント開催や人の動きの流れの変化

イスカウトによる参加)

め会など)

木の名札作り) ③ 第1回さくらまつりが行われる

き出しが行われる。

行われる。

贈られる。

病害虫対策、桜の植え替え)

板アンケート、花壇の植え替えなどを行う)

② 草刈り隊の活動 9/1421両日60名以上の人が参加

3 樹木の剪定隊が10~11月にかけて樹木の剪定を行う ⑤ 石拾い隊による活動 11/9 公園内の石拾いを25名で行う

イレの展示説明、防災かまどの利用。

図 12/2 元木小学校3 年生が花壇に球根を植える

● 正月明けに町内会によるどんと焼きが行われる ④ 第2回小田野中央公園まちづくり総会が開催される

⊕ 第1回秋の公園ワークショップを開催される

第四回さくら祭りが東日本大震災の影響により中止となる

⑤ 11/23 石川県羽咋市より公園まちづくりの会の取り組みと公園の視察に8名の方がくる

42 第1回納涼盆踊り大会が開催される

メンバーによる活動も行われる)

に関する効果が顕著であり、公園で様々な行動が生じてい る様子が示されている。

持続的なまちづくりへの効果においては、公園づくりを 通して効果17、18に示されるように、住民の公園づくりへ の参画意識の向上と実際の参加に関した効果が開園前後間 わずに確認できる。これらのように、期間ごとに生じたま ちづくり効果の特徴と、まちづくり効果の分類ごとにそれ

① ゆうやけの里・地域福祉フォーラムのスタート ② 八王子市により市民と協働して公園づくりを進める方針がうちだされる ③ 小田野中央公園を作る会が発足される ④ 町内会アンケートの実施 ⑤ 公園丸ごと調査隊としての現地調査、住民役50名とのワークショップ ⑥ 河津桜現地視察 ⑦ 川沿い道路拡幅に合わせた整地を八王子市が行う ⑧ 他市の手作り公園現地視察 ⑨ ニュースレター創刊号配布 ⑩ 第2回市民協働ワークショップ開催 (旗立てゲーム、ロープ柵作成、わら芝はり) ① 近隣住民への緩動植帯整備説明会の実施 ② 第3回市民協働ワークショップ開催 (みんなで公園の基本計画をたてよう、住民69名が参加) (3) 八王子市職員研修において公園づくりの活動を紹介 第1回ワーキンググループ作戦会議(①河川沿い道路接近木整備、②子供遊び場作り、③公園のシンボルづくり、3グループの活動が開始) ① 丸太ベンチの位置決め 16 丸太ベンチ7基設置 ① 元木小学校の児童72名により、こかげ広場の散策路作りが行われる 第4回市民協働ワークショップ開催(住民59名により、公園のペンチ塗り、公園の枯葉集めなどがは新 実施) ⑬ 恩方中学校生徒会と世田谷区羽根木公園冒険遊び場(プレーパーク)の視察を行う ∞ 八王子市と小田野中央公園を作る会がパートナーシップ同盟を締結する ② 11~2月(各ワーキンググループによる定例会議が月1で行われる) 第5回市民協働ワークショップ開催(沪津桜の植樹、桜周りの花の苗植え、木のペンダントづくり 元木小学校生による夢の公園づくり模型展示) 恩方中学校生徒会中心により、公園のボール遊びルール作りが行われる。野球部等によりボール遊 びの検証、思索が行われる。 第6回市民協働ワークショップ開催(アスレチック遊びと桜の手入れ、住民約200人が参加、ボー

② だれでもトイレ、公園のシンボル (カメの日時計、手押しポンプ、 築山) の完成

表 5.3 小田野中央公園に関連する出来事

らを発揮した出来事を表に整理して把握することで、公園 づくりの経緯を過程と特性に関して記述するための情報と 得た。また、これらをもとに持続的なまちづくりへの効果 を発現する出来事について、いかなる要素が公園の現状に 影響を与えているかを考察する。

③第一回さくらまつりが行われる

さくらまつりは小田野中央公園完成にあたって、東京都生活文化スポーツ局「東京都地域の 底力再生事業助成」対象事業として実施された。 第一回から行政・住民合わせて約1500人もの 人数が参加し、現在にいたるまで毎年河津桜の 季節である3月上旬に行われる小田野中央公園 学和である3月上旬に1/14/14/6小田野平天広園 一のイベントである。(2010年度の第四回のみ 震災の影響で開催中止)。元木小学校・恩方中 学校の生徒、また外部の人間によるパフォーマ ンスや炊き出し等各種イベントが行われた。第 一回であるさくらまつりでは、イベントと並ん で公園のお披露目が行われ多くの住民に小田野 中か2回のジャゼルやサイが際等か 中央公園のシンボルや魅力が認識された。



さくらまつりの様子

③とまちづくり効果の対応表

				直	接的	な交	加果を	示	t # t	ちづ	< 1)	の効	果					持紹	的な	i	っづ	(1) .	への	効果	
			惠級				行動		10	繊	3	間	技	rit .	87	伍	意	行動	10	196	2	間	技術	89	伍
出来事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
1					•	•	•			•								•							

図5.1まちづくり効果による整理図

表 5.4 公園の出来事とまちづくり効果の相関表

	直接的						な効果を示すまちづくり効果								持続的なまちづくりへの効果										
			意識			行動			組織				技術		87	評価		行動	組織		空間		技術	評	
出来事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	識17		19	20	21	22		24	25
1	П			•		Г			Г	•											•				
2	г		•			Г			•	Г										•					
3						Г			Г	•															
4				•	•	г			г	Г															
5						Г			Г	Г							•								
6	•					Г			Г	Г															
7	Г					Г			Г	Г															
8						Г			Г	Г															
9		•		•		Г				Г															
10			•		•	Г			•	Г							•								
11		•				Г			Г	Г															
12			•		•	Г			•	Г						П	•	•							П
13		•																							
14									•								•	•	•						
15)																									
16																									
17											•														
18	Г		•			Г				Г									П						
19						Г			Г	Г									П						
20		•				Г			Г	Г															
(21)																									
22					•	Г				Г							•								
23						Г			П	Г									П						
24)					•												•								
25																									
26						•																			
27)											•														•
28											•														
29																									
30			•		•						•														
31)						•	•	•			•														
32						L																			
33			_												_	Ш	•		ш				_		
34)	<u> </u>										_			_		Ш	•		ш				<u> </u>		
36	_															Ш	•	•	Ш						L
36							•									Ш			\vdash						
37)							•												ш						
38																	•		_						
39						L										Ш	•						_		
40	_					L	•																_		
41)	•						•	Ш									_	_					_		
42							•	Ш							_	_									
43	_	_	_					Ш			_				•	•	_	_			_		_		L
44							•	Ш							_										Ļ
46						•		Ш																	•
46										_															_
47)						•				•								_							L
48																							1		•

② 9~11月 (①公園遊び場作り:選定した遊見を実物大で再現し住民に見てもらう、②河津桜:補水・ ∞ 第7回市民協働ワークショップ開催(住民約150人参加、今までにない多彩なイベントを開催) 第8回市民協働ワークショップ開催(築山の芝はり、花壇づくり・トイレに描かれた絵画のおひろ 第9回市民協議ワークショップ開催(住民約130人により子供遊び場所証、公園のマナーアップ看 第10回市民協議ワークショップ開催(シンボルツリー: メタセコイヤの植樹、桜・くぬぎ林の再生、 □元木小学校3年生による小田野中央公園大作戦が始まる(55名)。総合学習の時間を用いて亀の日時計の花壇を手入れする 第14回恩方地区総合防災訓練に協賛団体として小田野中央公園まちづくりの会が参加する。防災ト 青少年対策協議会主催、親子ふれあいスポーツ大会。300名以上が参加、開催後公園の清掃活動や炊 127 恩方中学校生徒会主導の元(40数名)、清掃活動、落書き消し、マナー向上ポスター貼りなどが 10/12 元木小学校の児童が清掃活動に関わっていることについて、高尾警察署から感謝状と記念品が 八王子市と女川市による復興支援プロジェクトがはじまる (翌年のさくらまつりにはプロジェクト 石川県羽作市で開催されたまちづくりシンポジウムに参加。いしかわ地域づくり円陣2011に当時の

(3)場所愛着の観点を用いた考察

表 5.4 より、持続的なまちづくりへの効果を発現する出来事として、第 2 回から 10 回に及ぶワークショップとワーキンググループの活動、また開園後の地域活動とさくらまつりが挙げられる。出来事の特徴としては、ヒアリング調査からも、子供や女性が参加することで活力が生じることと、まちづくり団体の核の人々にとって地域活動は生きがいであること、期間を空けずにまちづくり効果を生じさせるイベント・活動が行われること、さくらまつりが地域内外問わず人々が集まるものであることの4つが確認された。これらの特徴を大谷による場所愛着の観点 から位置づけると、情動・行動・認知の全ての側面をカバーしていることが分かる(表 5.5)。

表 5.5 過程に関する場所愛着を生じる要素

20.0 2212	「一人」、「一人」、「一人」、「一人」、「一人」、「一人」、「一人」、「一人」、
過程に関する場所愛着	小田野中央公園での内容
情動	・チームひょうたんや元木小学校生徒達の活力溢れる 活動を認識することで、場所に対する好印象を持つ ・住民協議会の中心メンバー方は、現在の地域活動を 生き甲斐として行っている
行動	イベントや地域活動に実際に参加することで、自分が 場所に関与することで愛着が生じる
認知	地域外の人が公園を利用し、多くの人でさくらまつり が賑わうのを受けて誇りらしく思う

6. まとめ

以上の分析と考察を踏まえて、小田野中央公園の公園づくりのプロセスと現状の特質として明らかになったことをまとめる。

6.1 小田野中央公園の特性

ローカル・ガバナンスから小田野中央公園の計画から整備までの経緯をその過程・特性・工夫内容・展開要因によってまとめた(表 6.1)。この表から公園づくりのプロセスにおいて現状を形作る要因や公園づくりを持続させることができた理由を把握することができる。

以上より、開園から10年以上たつ今でも人々が小田野中

央公園に愛着を持つ理由を考えると、公園づくりにおける 長きに渡るローカル・ガバナンスのこうした過程と特徴に あると言える。具体的には、開園までのワークショップの 持続的開催により、住民(主に子供たち)が関わることで 生じる活力と、まちづくり団体の主要メンバーが活動に生 き甲斐を感じるほどの愛着を得ており、また、開園後のチ ームひょうたんによる活動により生じる新たな活力とさく らまつりの開催による小田野中央公園の認知度の向上・維 持が現在の人々に愛着をもたらしていることが分かった。

6.2 今後の課題

実際に日常的に公園を訪れている人々に、公園を利用する目的や小田野中央公園にどのような印象を抱いているのかについて答えてもらうことで、今回の分析方法では明らかにできない、小田野中央公園が持つ空間としての良さ(居心地の良さ、利用のしやすさ)の秘密といったものに迫れる可能性がある。

<参考文献>

1)今川晃・牛山久仁彦・村上順分権時代の地方自治三省堂 2005,pp10-26,2005 2)山本和興、平松優太無縁社会と地域コミュニティの再生都市政策研究第7号,pp.79-112,2013 3)中村良夫ら、風景とローカル・ガベナンス、早稲田大学出版部、2014,pp5-8 4)今川晃・地方自治体におけるガバナンスと住民自治都市とガバナンス・pl.26,pp.3-9,2016 5)羽貝正美、王野和志自治と参加・協働:ローカル・ガバナンスの再構築、京都:学芸出版 社2007,pp.12-18

6)山田二郎藤倉英世地域づくりへの内在的展開力を有する景観政策の実施過程に関する事例分析〜長野県・旧開田村を対象として〜景観・デザイン研究講演集 No.4.pp.107-116,2008 7)大谷華場所と個人の情動的なつながり一場所愛着、場所アイデンティティ、場所感覚―環境心理学研究第1巻第1号2013,

pp58-67

8線化生態研究室「まちづくり効果」を高める公共事業の進め方国総研資料第808 号pp.1-82,2014 9)「小田野中央公園まちづくりの会 HP」

http://odanopark-matizukuri.kids.coocan.jp/index.html

(最終閲覧: 2019年1月18日)

10)石井美・手作り公園事業―小田野中央公園の整備―,八王子都市政策研究所「まちづくり研究 八王子」政策事例報告第7号pp.122-129,2016

11) 八王子市まちなみ整備部公園課、八王子市立小田野中央公園の整備都市公園第 189 号,東京都公園協会。pp.1-8,2010

12)「八王子市HP小田野中央公園を作る会」

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisetsu/109/p011981.html (最終閲覧:2019 年 1 月 18 日)

表 6.1 小田野中央公園づくりの展開

過程	特性	工夫内容	展開要因
地域課題の発見	地域の共通の課題の存在まちづくりの機運向上	①八王子市による市民協働事業の提案	地域課題を問題視する機運が高まる中で、市が市民協働事業の提案を行うことで住民の参加コストを低くした
公園づくりの計画設計	協働の原則場と核の必要性	①アンケート②合同現地調査 ③子供達とのワークショップ ④八王子福祉園の「場」 ⑤恩方地区住民協議会の存在	公開の場での意見反映・意思決定・合意形成・情報開示の仕 組みを協働の原則の下作り上げた。八王子福祉園が話し合い の場を設けて、住民協議会の中心メンバーが核となり組織の 円滑化を図った
	主体の相互理解	①ワーキンググループの設立 ②小中学校生徒とのワークショップ	住民アンケートや公園まるごと調べ隊、子供の意見反映のためのワークショップを開催し理解が深まる
公園づくり計画実施	主体の目的共有主体間の連携の向上	①合同で汗を流す ②実際の活動を体験してもらうことで充実 感を生じる	元木小学校での公園目標像発表会や合同での工作などにより、まちづくりに参加する人と目的と充実感を共有する
	具体的な公園づくり	①イベント開催による人の呼び込み (シンボルの公開など)	炊き出しなど新たなイベントをワークショップ内で行うよ うになり、開園に向けて公園に関わる人の数が増え続けてい った
公園の維持活動	住民の参画意識向上の維持 人々の動きの流れの変化	①地域団体活動の維持 ②地域イベントの定期開催	新たな地域団体の活動による活力が維持につながる。まちづくり活動が生き甲斐となっている。
地域づくりの展開	新たなまちづくりへ	①地域活動・イベントの契機作り ②熱意	まちづくり活動で生じた活力を他の地域にも飛ばそうとする人々が現れる、新たな人と場所のつながりがうまれる